

定例記者会見（8月）次第

令和元年8月8日（木）
午前11時～
市長公室広報広聴係

<出席者>

酒田市／市長、副市長
危機管理監、総務部長、地域創生部交流推進調整監

酒田記者クラブ／各社
幹事社／毎日新聞、YTS（7月・8月）

1 開 会

(1) 発表事項

① 第25回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ（社会教育文化課）

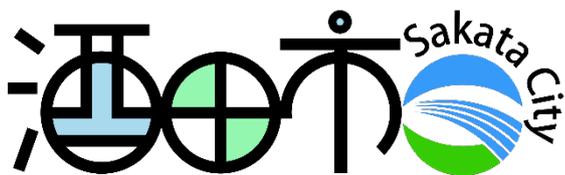
(2) 懇談・フリー質問〔幹事社〕

(3) その他

2 閉 会

◆その他配布資料

- ① 「第4回庄内釣りシンポジウム」を開催します（交流観光課）
- ② 新潟県・庄内エリアDCシンボル企画おいしい食の都庄内 酒まつり前売券を販売開始します（交流観光課）
- ③ 酒田ビッグビーチフェスタ2019を開催します（商工港湾課）



令和元年 8 月 8 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

第 25 回酒田市土門拳文化賞受賞者決定のお知らせ

「酒田市土門拳文化賞」は、本市出身の世界的な写真家・土門拳の芸術文化への功績を記念し、写真文化、写真芸術の振興を目的に平成 6 年 6 月に創設された賞です。

25 回目を迎えた今回は、全国 35 都道府県の 137 人から 143 テーマの作品が寄せられました。

6 月 28 日（金）、酒田市において選考委員会を開催し、次の通り受賞者が決定しましたので、お知らせいたします。

1 選考委員

江成 常夫 氏 写真家 九州産業大学名誉教授
大西 みつぐ 氏 写真家
藤森 武 氏 写真家 (公財) 土門拳記念館学芸担当理事

2 選考結果

○酒田市土門拳文化賞 (1 点)

いとゆう
「糸遊 ～ GOSSAMER」(モノクロ 30 枚組)

こうたき ゆうこ
上瀧 由布子 氏 (52 歳) 千葉県松戸市 主婦

○酒田市土門拳文化賞奨励賞受賞作品 (3 点、受付順)

(1) 「二つの祖国」(カラー 30 枚組)

かんの ちよこ
管野 千代子 氏 (73 歳) 栃木県那須塩原市 主婦

(2) 「墓場から揺り籠まで」(モノクロ 30 枚組)

てらもと まさひこ
寺本 雅彦 氏 (43 歳) 神奈川県横浜市旭区 自営業

(3) 「また一つ時を刻んで」(カラー 30 枚組)

しんかい ひろゆき
新海 裕幸 氏 (70 歳) 愛知県知多郡阿久比町 無職

3 今後のスケジュール

(1) 授賞式

日時／9 月 29 日 (日) 午前 10 時～ 場所／土門拳記念館

(2) 受賞作品展

9 月 27 日 (金) ～11 月 10 日 (日) 土門拳記念館
11 月 26 日 (火) ～12 月 2 日 (月) ニコンプラザ新宿
12 月 12 日 (木) ～12 月 18 日 (水) ニコンプラザ大阪

4 選考委員講評

<総 評>

戦後のカオスのなか「写真リアリズム」を提唱し、日本の写真界に新風を吹き込んだ土門拳は、生涯を通し大きな足跡を残した。その偉業を称え創設された「土門拳文化賞」は今年四半世紀の節目を迎えた。

「写真リアリズム」の礎は写真が普遍的価値とする記録性に他ならない。従ってこの賞に対する選考の評価基準は、表現として社会と時代に機能するうえで、写真が最も力とする、あるいは役割とする「記録性を基本とした新たな地平の開拓」と位置づけられてきている。

この賞の理念ともいべき価値づけが支持され「プロへの登竜門」として、さらに写真文化育成の場として、広く認知されるに至っている。

25回になる今年の応募作は、ほぼ例年並みの35都道府県から137人、143テーマが寄せられた。賞の性格が普及し、少子高齢化のもとの命の課題、過密の一方で進む限界集落の実態、復興途上の東日本大震災、人手不足に関連した国際交流、発展途上国の人権に関するルポルタージュなど、進行する時代を鋭利に捉えた作品が目をつけた。そのなかでも高齢化にともなう命の尊厳に関わる、精神性の高い作が心に残った。道義が軽んじられ、利己や飽食が肥大化する社会にあって、単なる記録に止まらず記録と創造がせめぎ合う、人間本来のありようを問う作品をさらに期待したい。

江 成 常 夫

<土門拳文化賞受賞作品について>

「糸遊 ~ GOSSAMER」^{いとゆう}上瀧^{こうたき} 由布子^{ゆふこ} 氏

「写真は光と影が織りなす芸術」と言われる。上瀧さんの写真は光が当たって被写体に影を作ったものを写した写真とは違うように思う。

^{かげ}陰の部分^{かげ}を大事にしている。陰の中にある、わずかな光が作り出すドラマを発見し、スポットライトが当たった被写体の陰そのものを主役に据えて写し出している。陰が演出した写真群とっていい。

日常生活の普遍的な世界を捉えて、「生きている」ということはどういうことなのかを写真で見事に表現している。

上瀧さん自身、決して孤独ではない。「頼りないほど柔らかい蜘蛛の糸が風に揺れているように不安定なだけなのだ」と言う。そのような心理状態を心象風景として写真表現したのである。

すべての写真は一分の隙もなく、余分なものも写っていない。確固たる自分自身の写真美学が一枚一枚の写真から伝わってくる。

藤 森 武

<土門拳文化賞奨励賞受賞作品について>

◆「二つの祖国」^{かんの}管野^{ちよこ} 千代子 氏

ルワンダ内戦によるコンゴ難民キャンプと福島^{ふくしま}の避難民仮設住宅を結ぶ糸。一人のルワンダの女性の献身的な活動と教育への重いが縦糸となり、また写真家自らが「世界」を理解していこうという誠実な態度を横糸とし、歳月を積み重ね写真記録として編み込まれた作品。25年前のジェノサイド、8年前の震災。悲しくも忌まわしい出来事だが、私たちは「人間の記憶」として心に留めたい。和やかな笑顔の写真を中心に据えたことにより、背景がしっかり際立った。

◆「墓場から揺り籠まで」^{はかば}ゆ^{かご} 寺本^{てらもと} 雅彦^{まさひこ} 氏

作者は東南アジア諸国、インドなどを旅し、地べたをゆっくり歩き様々な経験を積んでいる。フィリピン・マニラ市内の墓地とそこで暮らす人々に焦点を当てた作品は、貧困、スラムという社会状況を照らし出す。光景への驚きや戸惑いだけでなく、眼差しの優しさが加わった時、世界への窓を着実に広げようという意欲をそこに感じさせるものがある。モノクロ表現に賭ける糸はまだか細いが、今後、より丁寧な取材を通して精進していただきたい。

◆「また一つ時を刻んで」 しんかい ひろゆき 新海 裕幸 氏

淡々と過ぎていく日々。事象、情動、思索などとともに写真機がいつも側にある。私的な時間と空間が普遍性をもたらすのは、私たちが「生」を全うしようという意思がそこに立ち表れているからだ。それぞれの写真が丁寧に撮られている。ここにも命の糸が綺麗に繋がっている。鏡に自身の顔を映す「バール様」の写真ではないが、写真そのものが自己を映し出す鏡として機能していることを改めてこれらの写真群によって示されているのではないか。

大西 みつぐ

5 応募状況

年度	回	応募者数 (男・女)	テーマ数 (モノクロ・カラー・混合)	作品枚数	都道府県
R元	25	137 (104・33)	143 (61・77・5)	3,885	35
H29	24	131 (100・31)	146 (80・60・6)	3,923	36
H28	23	131 (111・20)	143 (56・75・12)	3,879	36
H27	22	135 (110・25)	143 (52・83・8)	3,892	35
H26	21	117 (98・19)	130 (64・62・4)	3,446	33
H25	20	128 (105・23)	140 (50・78・12)	3,632	41
H24	19	147 (121・26)	155 (63・79・13)	3,981	36
H23	18	156 (141・15)	161 (53・102・6)	4,179	41
H22	17	144 (127・17)	151 (68・79・4)	3,867	37
H21	16	136 (107・29)	154 (53・93・8)	2,979	35
H20	15	127 (112・15)	134 (43・89・2)	2,902	36
H19	14	147 (121・26)	155 (56・94・5)	3,442	40
H18	13	101 (81・20)	116 (57・53・6)	2,861	30
H17	12	111 (87・24)	117 (66・48・3)	2,999	32
H16	11	124 (95・29)	124 (51・69・4)	2,848	36
H15	10	110 (92・18)	120 (56・61・3)	2,849	29
H14	9	103 (84・19)	109 (49・54・6)	2,808	30
H13	8	136 (114・22)	142 (68・68・6)	3,311	35
H12	7	115 (97・18)	124 (75・47・2)	3,006	38
H11	6	119 (96・23)	127 (67・58・2)	2,739	34
H10	5	139 (108・31)	150 (74・71・5)	3,134	36
H9	4	138 (110・28)	151 (82・67・2)	3,144	37
H8	3	151 (124・27)	170 (80・86・4)	2,835	34
H7	2	104 (93・11)	114 (50・59・5)	1,938	34
H6	1	108 (103・5)	130 (62・66・2)	2,453	37

お問い合わせ／酒田市社会教育文化課 佐々木

TEL24-2982 FAX23-2257

Eメール art@city.sakata.lg.jp

第 25 回酒田市土門拳文化賞受賞作品

「糸遊 ～ GOSSAMER」

こうたき ゆうこ (千葉県松戸市)
上瀧 由布子 (千葉県松戸市)

代表作 1 点を掲示する場合はこの作品をご使用ください。



【解 説】

いとゆう
「糸遊 ～GOSSAMER」

糸遊とは晩秋や早春の頃、空中に蜘蛛の糸が浮遊する現象、あるかなきかのものにたとえられ(儚い)、漢語では陽炎の意味もある。

Gossamer も同様に細い蜘蛛の流れ糸、遊糸、薄い紗、流れ糸のように繊細なもの、という意味がある。

この作品は、2011年に相次いで他界した両親の死がきっかけで撮り始めた。過去2回の展示をした索引と新たに作品を加え一つの形にまとめたものである。

命が永遠で無いことを頭では解っている、心で受け止められない現実を埋めるため、一心不乱に打ち込むことのできる何かを写真表現に見出した自身が現実を受け止め、『“生きて在る “ということはどういうことなのか』』ということテーマに、日常・住処を撮る（普遍的な世界を捉える）ことで核心にすこしでも近づきたいと考え、そして自身の心の揺らぎを表した。

上瀧 由布子

第25回酒田市土門拳文化賞受賞者 上瀧 由布子

略 歴

○活動歴

- ・1966年 生まれ
- ・2012年 写真表現中村教室にて中村誠、小宮山桂の各氏に師事
蒼穹舎より写真集『糸遊～GOSSAMER』発行

○受賞歴

なし



上瀧 由布子氏

○個展

- ・2016年 エプソンイメージングギャラリーエプサイト『空せ身』個展
- ・2017年 銀座ニコンサロン『糸遊』（いとゆふ）
- ・2019年 サードディストリクトギャラリー『糸遊～GOSSAMER』個展

第 25 回酒田市土門拳文化賞奨励賞受賞作品(3 点)

「二つの祖国」^{かんの} 管野 ^{ちよこ} 千代子 (栃木県那須塩原市)



「二つの祖国」

25 年前、ルワンダの内戦で 50 万人から 80 万人の人の命が奪われた時、マリールイーザはコンゴ民主共和国の難民キャンプにいました。その時彼女と家族 4 人の命を救ったのは手の平にも乗る小さな和仏辞典でした。

日本の留学経験と辞典のお陰でアムダの日本人医師の通訳になり、日本の友人達と連絡がとれ命が助かったのです。その経験から教育の重要性を身を持って感じ、現在福島市に住みながら年に数回ルワンダに行き、学校建設と子供達の教育に力を入れています。又、日本国内では平和の尊さを講演活動で訴えています。東日本大震災では今までお世話になったお礼にと仮設住宅の集会所を回りルワンダコーヒーのサービスをし避難民の心のケアに当たりました。ジェノサイドの過酷な運命にあいながらも二つの祖国の掛け橋となって人の為に尽くすマリールイーザさんに感動し、自分も写真の力で応援したいと思いました。

管野 千代子

「墓場から揺り籠まで」寺本 雅彦（神奈川県横浜市旭区）



「墓場から揺り籠まで」

奔放なまでの欲望の終着点、あるいは輝かしい天国への入り口か。大きな混沌の中にある静寂と安らぎ、市内にある墓地とそこで暮らす人々の営みを巡りました。

灰色の天から灰色の地へ、生きとし生けるもの全てに分け隔てなく降り注ぐ豪雨は熱に焼かれる者にとってそれは恩恵であり、同時に濁流となり全ての営みを無慈悲に押し流す運命でもあります。

500年ほど前に船に乗って十字架と、そして武器を携えてこの国を訪れた神がもたらした恩恵と不条理。

しかしそれ以前よりこの地では平等に雨が降り、そして平等に死を迎えていました。

産声と共に始まり沈黙に終わる営みの場で、また始まる新たな命。終焉を知る人々は命が一過性のものではなく、やがてまた巡るものだと思うのかもしれない。

寺本 雅彦

「また一つ時を刻んで」新海 裕幸（愛知県知多郡阿久比町）



「また一つ時を刻んで」

日々の暮らしの中で、ちょっとした変化や出来事に反応してはシャッターを押すことを何かの義務か使命のように繰り返しながら、日記を描くように周辺の写真を撮っています。

先日96歳になったバー様は1年前、肺炎で1ヶ月入院し戻ってきたときには歩けなくなっていました。現在は安定し一日中を自宅のベッドの上で過ごしています。日が経つにつれ、身体機能は少しずつ衰え、目は徐々に見えなくなり耳はほとんど聞こえなくなって会話も普通には出来なくなっています。時々会いに来てくれる孫や曾孫、自分の娘の顔を見ると「まああかなあ」とつぶやきながら、目が輝き顔がほころびます。

そうして、一日一日と刻んで後戻りできない“時”が確実に進んでいきます。

新海 裕幸

※ 掲載用として上記受賞作品の一部と受賞者の顔写真（文化賞）をデータでご用意しております。
ご希望の場合は下記までご連絡ください。

酒田市社会教育文化課 文化芸術係（担当：佐々木）
TEL (0234) 24-2982 FAX (0234) 23-2257
e-mail : art@city.sakata.lg.jp

第25回酒田市土門拳文化賞応募者数（地域別）調

北海道 3 2.3%	北海道 3	近畿 21 16.0%	滋賀県 2 京都府 3 大阪府 3 兵庫県 6 奈良県 3 和歌山県 4
東北 19 14.5%	青森県 4 岩手県 3 宮城県 5 秋田県 0 山形県 5 福島県 2	中国 3 2.3%	鳥取県 0 島根県 1 岡山県 1 広島県 1 山口県 0
関東 60 45.8%	茨城県 2 栃木県 2 群馬県 1 埼玉県 14 千葉県 5 東京都 24 神奈川県 12 山梨県 0	四国 5 3.8%	徳島県 1 香川県 1 愛媛県 0 高知県 3
信越 5 3.8%	長野県 2 新潟県 3	九州 5 3.8%	福岡県 1 佐賀県 0 長崎県 3 熊本県 0 大分県 0 宮崎県 1 鹿児島県 0
北陸 1 0.7%	富山県 1 石川県 0 福井県 0	沖縄 0 0.0%	沖縄県 0
東海 15 11.5%	岐阜県 3 静岡県 4 愛知県 5 三重県 3	計 137人	
(35都道府県)			
応募テーマ	1テーマ 127人 (127作品) 2テーマ 6人 (12作品) 4テーマ 1人 (4作品)		
143テーマ/3885枚 (1テーマ平均 27.16枚)			

令和元年 8 月 8 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

「第 4 回庄内釣りシンポジウム」を開催します

8 月 25 日（日）、第 4 回目となる「庄内釣りシンポジウム」を開催します。
つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

◆ポイント

○庄内に昔から根付く「粋な釣り文化」にスポットを当て、観光振興としての「釣り王国庄内」を確立するために「第 4 回庄内釣りシンポジウム」を開催します。

○基調講演「私のつり人生」、話題提供「釣リエサのひみつ」、各ジャンルの釣り師による「パネルディスカッション」、そして、釣り具メーカーから提供される豪華記念品があたる「お楽しみ抽選会」が行われます。

○日時／8 月 25 日（日）午後 1 時 30 分～4 時 30 分

○場所／東北公益文科大学公益ホール

○対象／どなたでも（入場料無料）

○内容／基調講演 「私のつり人生」

講師 酒田海上保安部 部長 辰巳屋 誠 氏

話題提供 「釣リエサのひみつ」

講師 マルキュー(株) 長岡 寛 氏

パネルディスカッション「日本一の釣り王国庄内」に向けて

コーディネーター 舞踊家・オールラウンド釣り師 福田 真子 氏

パネリスト NPO 法人 山形県小型船舶安全協会 会長

鶴岡小型船舶安全協会 会長 齋藤 賢作 氏

酒田小型船舶安全協会顧問・弁護士 加藤 栄 氏

ビッグサオトメ 運営統括責任者 早乙女 浩二 氏

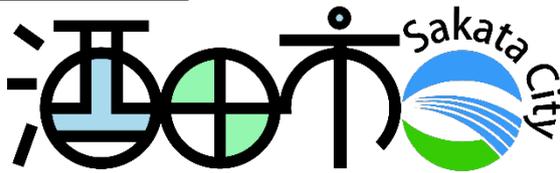
(株)釣り東北社 代表取締役社長 伊藤 克朗 氏



●お問い合わせ／交流観光課 市村・数馬

TEL 26-5809、FAX 22-3910

Eメール sk-koryu@city.sakata.lg.jp



令和元年 8 月 8 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

新潟県・庄内エリアDCシンボル企画 おいしい食の都庄内 酒まつり前売券 を販売開始します

このたび、新潟県・庄内エリア DCシンボル企画「おいしい食の都庄内酒まつり」を下記のとおり開催します。

つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

◆ポイント

○チケット制の日本酒イベント。美食・美酒県やまがたの全酒蔵の日本酒（1杯約50ミリリットル）が楽しめます。

◆新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン（DC）とは
新潟県・庄内エリアの両地域が共通する「食」「酒」等の魅力を中心に、テーマを「日本海美食旅（日本海ガストロノミー）」としました。新潟県と庄内エリアの広域での取組を実施し、更なる交流人口の拡大に繋がります。

○DC期間 2019.10.1~12.31 / アフターDC 2020.10.1~12.31

【おいしい食の都庄内酒まつり 前売券について】

○日時／10月12日（土）正午～午後6時

○場所／中町モール、中町にぎわい健康プラザ（酒田市中町二丁目4-12）

○チケット／8月1日（木）から販売中

1組 1,000円（12チケット。当日は1組10チケット）

◆チケット販売所は別紙チラシのとおり。

○その他／イベントの詳細については別紙チラシを参照してください。

●お問い合わせ／交流観光課観光戦略係

小山 薫

TEL 26-5759、FAX 22-3910

Eメール kankou@city.sakata.lg.jp

令和元年 8 月 8 日

酒田記者クラブ加盟社 各位

酒田ビッグビーチフェスタ 2019 を開催します

このたび、「海の日」記念事業実行委員会では、親水空間としての酒田港の魅力を広く一般に知っていただくとともに、市民と浜辺を近づけることを目的として、酒田港内の大浜海岸で「酒田ビッグビーチフェスタ 2019」を開催します。

つきましては、取材等に関し特段のご配慮を賜りますようお願いいたします。

○日時／8月24日（土）午前8時30分～午後3時

○場所／酒田港大浜海岸

○内容（予定）／

- ①ビーチバレーボール大会（男女別2人制、男女混合の4人制）
- ②家族対抗はだし運動会
- ③ビーチヨガ（初）
- ④シーカヤック体験
- ⑤フライボード体験
- ⑥水上バイク体験
- ⑦ビーサン跳ばし大会
- ⑧ビーチフラッグス
- ⑨グローバルウインドデイ in 酒田港
（ペットボトル風車の工作、風力発電施設内の見学）
※主催／酒田港風力発電協議会
- ⑩FRCブロックのパネル展示（初）
- ⑪グルメ市
- ⑫大浜海岸クリーンアップ



●お問い合わせ

「海の日」記念事業実行委員会

（事務局：酒田市商工港湾課港湾振興係）

担当：小林、小松

TEL 26-5758、FAX 26-3910

Eメール kowan@city.sakata.lg.jp